

日本における魚摂取と前立腺癌罹患に関する前向きコホート研究

Fish intake and the risk of prostate cancer in Japan: a prospective cohort study.

2008 年 日本泌尿器科学会雑誌 発表

要 旨

〔目的〕 魚摂取と前立腺癌罹患リスク低下との関連に関する従来の前向きコホート研究の結果は一致しておらず、魚摂取の多い国での検討は少ない。本研究の目的は日本人を対象に、魚摂取と前立腺癌罹患リスクとの関連について検討することである。

〔対象と方法〕 宮城県大崎保健所管内に居住する 40～79 歳の国民健康保険に加入している男性全員を対象に、1994 年 10 月から 12 月に自記式質問票を配布した。回収率は 94%(24,895 名)であった。質問票の魚摂取頻度より魚摂取量を算出し、対象者を四分位に分類した。魚摂取量最小四分位群を基準として、他群の前立腺癌罹患のハザード比(HR)、95%信頼区間(95%CI)を Cox 比例ハザードモデルにて算出した。

〔結果〕 7 年間の追跡期間中、95 例の前立腺癌罹患を確認した。前立腺癌罹患の多変量補正 HR(95%CI)は魚摂取量の最も多い群で 0.72(0.40～1.33)(傾向性の P 値=0.23)であった。70 歳未満では関連がみられなかったが、70 歳以上の多変量補正 HR(95%CI)は魚摂取量の最も多い群で 0.44(0.18～1.11)(傾向性の P 値=0.08)であった。

〔結論〕 40～69 歳では関連は見られなかった。一方、70 歳以上ではリスクが低下する傾向が見られたが、有意ではなかった。

(以上、日本泌尿器科学会雑誌より転載)

解 説

本研究では、魚摂取により前立腺癌の発生リスクが減るかどうかを明らかにするため、宮城県コホート研究データを用いて検討しました。魚摂取量より集団を 4 つに分けて、前立腺癌罹患リスクを比較したところ、前立腺癌罹患のハザード比は、摂取量の最も少ない群（1 日摂取 26.2g 以下）に比べて、2 番目に少ない群（同 26.3g-53.3g）で 0.92 倍（8%減）、2 番目に多い群（同 53.4g-100.8g）で 0.73 倍（27%減）、最も多い群（同 100.8g 以上）で 0.72 倍（28%減）と、魚摂取量の多い群ほど前立腺癌罹患リスクが低下する傾向が認められましたが、それは統計学的に有意なレベルには達していませんでした（図）。魚摂取と前立腺癌との関係を解明するには、さらなる観察を積み重ねる必要があると言えます。

魚摂取量四分位ごとの前立腺癌罹患のハザード比

